

第3回 研究授業記録

11月22日(金)
中之町幼稚園

- 日時 11月22日(木) 13:45~14:35
- 会場 中之町幼稚園
- 授業者 1組 山口和枝 教諭 2組 鶴田貴恵 教諭
- 内容 赤坂中学校の3年生と交流



研究協議会から

at 中之町幼稚園
遊戯室

◇ 授業者自評

- ・今まで赤坂中学校の生徒との交流はしていたが、5歳児だけで交流をしたのは今回が初めてだった。中学生も優しく、とてもよい交流になった。中学生の歌を聞かせてもらい、刺激になった。
- ・中学生との交流を楽しみにできるように事前に話をしていて、交流への期待感が高まっていた。
(「中学生は何歳だろう?」「一緒に何をして遊ぼうか」など)

◇ 指導・講評・講演

中之町幼稚園 園長 大橋美都子

○ 5領域

「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」

○ 幼児期に育みたい資質・能力

「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」

○ 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

10の姿は、到達目標ではなく、資質・能力が育まれている5歳児後半の具体的な姿である。

グループ協議より (抜粋)

自立心

- ・「自分のことは自分です」ということが育っているので、1年生のお世話の仕方は、なんでもしてあげるお手伝いではなく、緊張や不安を支えて、できることできるように見守ってあげるお手伝いができるとう良い。

協同性・言葉による伝え合い・道徳性

- ・ドッジボールで遊ぶとき、幼児は普段自分たちがしている進め方を中学生に伝え、一緒に遊ぼうとしていた。
- ・ドッジボールのルールが分かり、守ってやっていた。小学校以降でも必要になる。

社会生活とのかかわり

- ・中学生と幼児とのかかわりが温かく、一体感があつた。お互いに受け入れ合う姿があつた。
- ・中学生も普段とは違う姿で、いきいきしていた。普段教師から言われていることを幼児に伝えていた。
- ・自分たちの幼稚園に来てくれたことで、中学生と一緒にしたいことを考えて楽しみにし、安心してかかわっていた。中学生や小学生の歌を聞かせてもらったり学芸会を見学させてもらったりし、刺激になり憧れをもっている。

今年度アカデミーの成果と課題

- ・教師間の交流が多くもて、繋がりが強くなったと思う。それぞれの校種の研究授業・保育をみて、子どもの成長の課程が分かったため、今後のアカデミー研究授業も、全校種の子どもと教師が参加できるように工夫したい。
- ・中学生と幼児は年が離れている分、幼児は思いを受けとめてもらえる、中学生は幼児の思いを受け止めようとするという経験ができると思うので、交流は続けたい。
- ・研究授業や保育を全ての時間を見ていないと協議にならないので、下校時間の調整をする必要がある。
- ・研究授業を年3回というよりは、普段からお互いが行き来できる機会があるといいのではないか。その一方でカリキュラムに入れる難しさもあるので検討が必要。